



きれいな学校 輝く笑顔 ～J(授業)A(挨拶)S(清掃)MI(身だしなみ)N(仲間)～

大久保中だより

〒338-0815 さいたま市桜区五関282

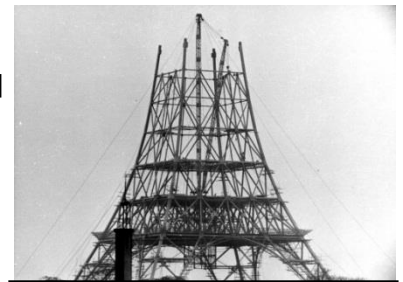
Tel 048-852-3554 Fax 048-840-1430

Mail Address : okubo-j@saitama-city.ed.jp

「日本一の練習をしないと、日本一になれない」「土台のないところに、家は建たない」

校長 新井 敬二郎

さあ、明日からはいよいよ新人体育大会です。みなさん、やる気に満ち溢れていますか。今回は、スポーツにおいても人生においても「土台が大事」という話をしたいと思います。夏の甲子園で2年ぶりの優勝を飾った大阪桐蔭の監督西谷浩一さんは、新聞紙上でこんな裏話をしてくれました。秋季大阪大会では、屈辱のゴールド負けを喫してセンバツ大会への出場は叶わなかった。決して気が緩んでいたわけではないが、この時「このままでは終われない」と、選手にも自分にも言い聞かせたそうだ。「**日本一の練習を**



東京タワー(昭和32年暮れ)

しないと、日本一になれない」。この後みっちり「**質量とも誇れる練習**」を積んできたそうである。しかも「優勝するチームは大会中に成長する」という西谷監督の経験則通りにスター選手はいないが価値ある優勝を勝ち取った。甲子園で優勝するには、地区大会から一度も負けてはいけないのですから、それは大変なことです。

テニス全米オープンでは錦織圭選手が準優勝の快挙を成し遂げました。四大大会シングルスで日本選手として初めて決勝に進出した24歳はのエースは「強い相手にしっかり勝ちきることができた。攻撃的な、理想とするプレーになってきている」と手ごたえを口にしました。錦織選手の躍進には、マイケル・チャンコーチの存在が大きいと言われています。世界レベルの戦い方をよく知るチャン・コーチは、厳しい練習を取り入れ、狙ったところに打ち返す技術、強い球を打つ力、打ち合いになっても球に食らい付き粘ることを教え込みました。錦織選手は、「**基礎練習の繰り返しが一番きつかった**」と後で述べています。(次ページに錦織圭選手の小学卒業文集「ぼくの夢」を掲載)



そう言えば誰が言ったのか「**日本一でっかいビルには、日本一の土台がある**」「**土台のないところに、家は建たない**」という言葉思い出しました。「土台」を辞書で引くと、①木造建築で柱の下にあって、柱から伝えられる荷重を基礎に伝える役割を果たす横材。②家や橋などの建造物の底部にあって、上の重みを支えるもの。基礎。③物事の基礎。もとい。基本。とあります。写真(上)のように東京タワーの建設に当たっては、台風や地震の多い日本の風土にあって、寸分の狂いも許されない大きな土台があってこそ上部の重みを支えることができている。また、現在日本一の高層ビルは大阪の「あべのハルカス(地上300m)」ですが、このビルも日本一しっかりした土台を持っているはずですよ。

さて話を「人の生き方」に戻すと「土台」とは、スポーツにおいては基礎体力であり、学問においては基礎知識であり、何事も、基礎が大事だということです。日本一のチームになるためには、日本一の練習が必要であり、基礎体力はもちろん、基礎の反復練習を質量共に行わなければなりません。みなさんは、新人体育大会に向けて、**さいたま市一の練習**をしてきましたか。三年生はいよいよ大切な進路選択の時期です。学問においては、教科にそれぞれ基礎・基本があります。これが一番大事。反復練習をしっかり行い、基礎・基本を身に付けたうえで応用問題、発展問題に挑戦しましょう。

大久保地区小・中一貫教育目指す児童生徒像 「ふるさとを愛し 志高く生きる 心優しい大久保の子ども」